17. 強皮症患者の ^{123}I-IMP 肺シンチグラフィー

中村　和義　大井　牧　寺田　尚弘
野本　由人　小野　元嗣　竹田　寛
中川　毅　(三重大・放)

われわれは強皮症例にて肺拡散能のみが低下している例をよく経験するため IMP 肺シンチグラフィーによる検討を行った.

^{123}I-IMP 急速静注後 SPECT にて一分間の scan を連続 30 回繰り返した. 求めた SPECT 像より下肺野横隔膜側に ROI を取り, TAC より two compartment fitting を行い, 早期消失率 k1, 晩期消失率 k2 を求めた. コントロールの k1=0.142±0.094, k2=0.239, 強皮症線維化肺 k1=0.658±0.159, k2=0.269, CREST 型 k1=0.796±0.120, k2=0.227 で, コントロールと線維化肺, CREST 型にて k1 値に有意差 ($p<0.01$) を認め, k2 値には有意差を認めなかった.

18. ^{99m}Tc-HMDP シンチにて心筋描画を呈した遺伝性アミロイドーシス

南部　一郎　遠山　淳子　手縄　明美
飯田　昭彦　水谷　弘和　大場　覚
(名古屋市大・放)

多発性神経炎と皮疹を認めた男性とその妹2名の症例は, プレアルブミンの 30 番目のアミノ酸がメチオニンに置換された Variant Met^{30} transthyretin が高値であり, 家族性発症の遺伝性アミロイドーシスであることが示唆された. ^{99m}Tc-HMDP シンチにおいて, 1 例は心筋にびまん性, 1 例は心筋に淡い集積があり, 臨床所見などからアミロイドーシスによる集積と思われた. Variant Met^{30} transthyretin の値と ^{99m}Tc-HMDP シンチの心筋への集積には, 相関はなく, 心筋の微細な障害など他の要因が加わっている可能性が示唆された. ^{99m}Tc-HMDP シンチと ^{201}Tl 心筋シンチの心筋の所見には, 一致はみられず, アミロイドが沈着しても心筋細胞はある程度保たれていると考えられた.

19. ^{67}Ga シンチグラフィーにおける両側瀰漫性肺集積の臨床的検討

小林　英敏　柴田　清治
(岐阜県立多治見病院・放)
佐久間貞行　(名古屋大・放)

岐阜県立多治見病院において過去3年間に行われた 643 回の Ga シンチのうち, 両側瀰漫性肺集積を示した 24 検査 23 症例を検討し, 以下の結論を得た.

1) Ga シンチにおける瀰漫性肺集積において, Ga 集積は病態の経過を必ずしも予測し得ない.

2) Ga 集積は胸部レントゲン写真で認められる病変部より広い範囲に集積している. 従来は, subclinical な炎症部位への集積とされていたが, 経過をおって検討すると説明のつかない症例がある. 病変に起因する血流変化など局所の病理学的変化以外の因子も Ga 集積に関与していると推察される.

3) Ga シンチにおける瀰漫性肺集積は地域の特殊性を反映している. 病院の位置している地域の疾患動態を知っておくことも正確な診断のために必要である.

20. 悪性リンパ腫の骨病変に関する検討

越元　佳郎　佐藤あかね　池村　千賀
岩崎　俊子　山本　和高　中島　鉄夫
外山　貴士　林　信成　石井　靖
(福井医大・放)
今村　信　吉田　明　中村　徹
(同・一内)
萩原　道博　坊　昭彦　井村　慎一
(同・整外)

骨病変を伴った non-Hodgkin lymphoma の 6 例 (原発 3 例, 転移 3 例) 15 病変を, 単純X線・骨シンチ・Ga シンチにて検討した.

原発性および転移性病変に, 罹患部位・X線像で特徴的なものはなく, 鑑別は困難であった. 両者に共通していたことは, 溶骨性病変が主体であり, 多発性に認めたことであった.

悪性リンパ腫の骨病変に対し, X線・骨シンチにて検討した文献では, 骨シンチが骨病変の検出に優れているという報告をしているが, われわれが経験した症例では, 骨シンチで明瞭な集積を認めなかった病変でも Ga シン

Presented by Medical*Online